

承認番号	22500AMX01072000
薬価収載	2013年12月
販売開始	2005年7月

酸安定性・持続型
マクロライド系抗生剤

*日本薬局方 **ロキシスロマイシン錠**
ロキシスロマイシン錠150mg「JG」

処方箋医薬品[※]

*【貯法】
室温保存、気密容器
【使用期限】
3年間（外箱に表示の
期限内に使用すること。）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

- (1)本剤に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2)エルゴタミン（エルゴタミン酒石酸塩、ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩）含有製剤を投与中の患者（「2. 相互作用」の項参照）

【組成・性状】

販売名	ロキシスロマイシン錠150mg「JG」
成分・含量 (1錠中)	日局 ロキシスロマイシン 150mg (力価)
添加物	乳糖水和物、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン酸カルシウム、軽質無水ケイ酸、ヒプロメロース、マクロゴール6000
剤形・性状	白色のフィルムコーティング錠
外形	
大きさ(mm)	直径：9.1 厚さ：3.9
重量(mg)	215
識別コード	CH74

【効能・効果】

【適応菌種】

本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ（ブランハマ）・カタラーリス、アクネ菌、肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ）

【適応症】

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの）、咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、肺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎

* **【効能・効果に関連する使用上の注意】**

咽頭・喉頭炎、扁桃炎、急性気管支炎、中耳炎、副鼻腔炎への使用にあたっては、「抗微生物薬適正使用の手引き」¹⁾を参照し、抗菌薬投与の必要性を判断した上で、本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。

【用法・用量】

通常、成人にはロキシスロマイシンとして1日量300mg（力価）を2回に分割し、経口投与する。

【用法・用量に関連する使用上の注意】

本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1)過敏症の既往歴のある患者
- (2)肝障害のある患者〔血中濃度が持続するおそれがあることで、投与間隔をあげることで〕
- (3)高齢者（「4. 高齢者への投与」の項参照）
- (4)QT延長を起こすおそれのある患者（先天性QT延長症候群の患者、低カリウム血症等の電解質異常のある患者、QT延長を起こすことが知られている薬剤を投与中の患者）〔QT延長を起こすおそれがある。（「3. 副作用」の項参照）〕

2. 相互作用

(1)併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
エルゴタミン（エルゴタミン酒石酸塩、ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩）を含有する製剤 クリアミン ジヒデルゴット等	エルゴタミンの作用を増強させ、四肢の虚血を起こすおそれがある。	肝薬物代謝酵素が阻害され、エルゴタミンの血中濃度が上昇し、エルゴタミンの末梢血管収縮作用が増強すると考えられる。

(2)併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テオフィリン	テオフィリンの血中濃度が上昇し、中毒症状（悪心、嘔吐等）を起こすことがある。	肝薬物代謝酵素が阻害され、テオフィリン血中濃度が上昇すると考えられる。
ワルファリンカリウム	ワルファリンの作用を増強させ出血症状を起こすおそれがある。	肝薬物代謝酵素が阻害され、ワルファリン血中濃度が上昇すると考えられる。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1)重大な副作用（頻度不明）

- 1) **ショック、アナフィラキシー**：ショック、アナフィラキシーを起こすことがあるので、観察を十分に行い、不快感、口内異常感、眩暈、便意、耳鳴、発汗、喘鳴、呼吸困難、血管浮腫、全身の潮紅・蕁麻疹等の異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) **偽膜性大腸炎、出血性大腸炎**：偽膜性大腸炎、出血性大腸炎等の重篤な大腸炎があらわれることがある。腹痛、頻回の下痢、血便等があらわれた場合には、直ちに投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 3) **間質性肺炎**：間質性肺炎（初期症状：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多等）があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には、投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- 4) **血小板減少症**：血小板減少症があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 5) **肝機能障害、黄疸**：AST (GOT)、ALT (GPT)の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 6) **皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）**：皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、発熱、紅斑、痒痒感、眼充血、口内炎等の症状が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 7) **QT延長、心室頻拍（Torsades de pointesを含む）**：QT延長、心室頻拍（Torsades de pointesを含む）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合は投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、発熱、多形紅斑等
精神神経系	頭痛、浮動性めまい、舌のしびれ感、しびれ、眠気、錯乱
血液	好酸球增多、白血球減少
肝臓	AST (GOT)、ALT (GPT)、Al-P等の上昇、胆汁うっ滞等の肝機能障害
消化器	胃部不快感、腹痛、下痢、嘔吐、口渇、食欲不振、腹部膨満感、胸やけ等
感覚器	味覚異常、嗅覚異常、難聴、耳鳴、回転性めまい、視力障害、霧視
その他	浮腫、菌交代症、全身倦怠感、脱力感、動悸、関節痛、鼻出血、月経異常

注) 症状があらわれた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4. 高齢者への投与

高齢者での薬物動態試験で、健康成人に比べ高い血中濃度が持続する傾向が認められているので、慎重に投与すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断された場合にのみ投与すること。[動物実験(ラット)において臨床用量の約80倍で胎児の外表異常及び骨格異常の発現頻度が対照群に比べ高いとの報告がある。]

(2) 授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与する場合には、授乳を中止させること。[動物実験(ラット)で乳汁中へ移行することが認められている。]

6. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。(使用経験がない。)

7. 適用上の注意

(1) 服用時: 健康成人において天然ケイ酸アルミニウムと併用した場合、本剤の吸収が低下したとの報告がある。

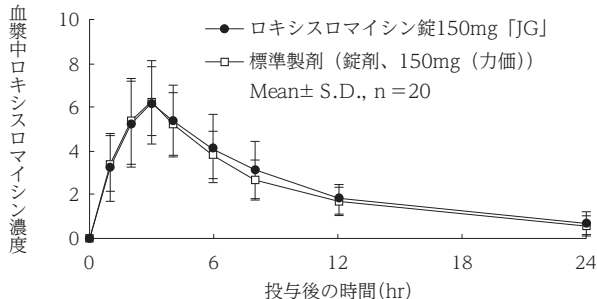
(2) 薬剤交付時: PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜に刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

*【薬物動態】

1. 生物学的同等性試験

ロキシシロマイシン錠150mg [JG] と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(ロキシシロマイシンとして150mg(力価))健康成人男子に空腹時単回経口投与して血漿中ロキシシロマイシン濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)~log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。²⁾

(μg(力価)/mL)



	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₂₄ (μg(力価)・hr/mL)	Cmax (μg(力価)/mL)	Tmax (hr)	t _{1/2} (hr)
ロキシシロマイシン錠150mg [JG]	59.4±19.9	6.6±1.9	2.9±0.6	7.9±2.6
標準製剤(錠剤, 150mg 力価)	55.7±16.1	6.6±1.8	2.8±0.4	7.6±3.2

(Mean±S.D., n=20)

血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2. 溶出挙動

ロキシシロマイシン錠150mg [JG] は、日本薬局方医薬品各条に定められたロキシシロマイシン錠の溶出規格に適合していることが確認されている。³⁾

*【薬効薬理】

エリスロマイシンの誘導体であり、ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)、モラクセラ(プランハメラ)・カタラーリス等に抗菌力を示す。作用機序は他のマクロライド系抗生物質と同様に、細菌のリボソームにおけるタンパク合成を阻害し、静菌的に作用する。また、貪食細胞への移行に優れ、貪食細胞の食菌・殺菌作用を促進する。⁴⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

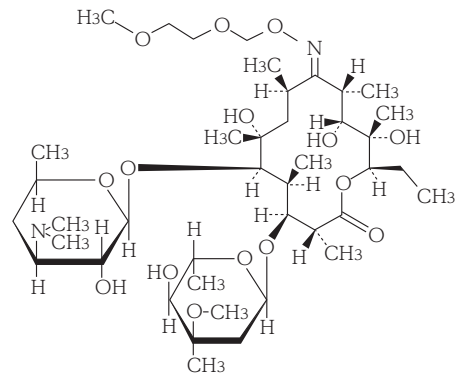
一般名: ロキシシロマイシン (Roxithromycin)

化学名: (2R,3S,4S,5R,6R,8R,9E,10R,11R,12S,13R)-5-(3,4,6-Trideoxy-3-dimethylamino-β-D-xylo-hexopyranosyloxy)-3-(2,6-dideoxy-3-C-methyl-3-O-methyl-α-L-ribo-hexopyranosyloxy)-6,11,12-trihydroxy-9-(2-methoxyethoxy)methoxyimino-2,4,6,8,10,12-hexamethylpentadecan-13-olide

分子式: C₄₁H₇₆N₂O₁₅

分子量: 837.05

構造式:



性状: ロキシシロマイシンは白色の結晶性の粉末である。エタノール(95)又はアセトンに溶けやすく、メタノールにやや溶けやすく、水にほとんど溶けない。

【取扱い上の注意】

安定性試験

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温保存、3年)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、ロキシシロマイシン錠150mg [JG] の室温保存における3年間の安定性が確認された。⁵⁾

【包装】

ロキシシロマイシン錠150mg [JG]

PTP: 100錠(10錠×10)、500錠(10錠×50)

*【主要文献】

- 厚生労働省健康局結核感染症課編: 抗微生物薬適正使用の手引き
- 長生堂製薬株式会社 社内資料(生物学的同等性試験に関する資料)
- 長生堂製薬株式会社 社内資料(溶出試験に関する資料)
- 第十七改正日本薬局方第一追補解説書
- 長生堂製薬株式会社 社内資料(安定性試験に関する資料)

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。
日本ジェネリック株式会社 お客さま相談室
〒100-6739 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
TEL 0120-893-170 FAX 0120-893-172

販売元

JG 日本ジェネリック株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

製造販売元

Chosei 長生堂製薬株式会社
徳島市国府町府中92番地